OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 人文・社会系におけるコンピュータ・情報ネットワーク |
| Author(s) | 前迫, 孝憲 |
| Citation | 大阪大学大型計算機センターニュース. 1997, 105, p. 1-1 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/66221 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻頭言

# 人文・社会系におけるコンピュータ・情報ネットワーク

教育広報委員会人文・社会系グループ

今回は、本センターにさまざまな面から御協力いただいている人文・社会系の先生方に原稿をお願いして特集を組ませていただきました。

近年、コンピュータやインターネットの普及が目覚ましい。十年程前にパソコン通信時代到来と言われながら扱いの容易なファクシミリが浸透した当時とは違い、社会基盤としてのインターネットや情報ハイウェイにも具体的な役割が期待されるようになり、パーソナルコンピュータが生活のあちらこちらに顔を覗かせるようになりました。しかし、これまでのところ、コンピュータは扱い難いとの評価に大きな変化はないようです。とはいえ、社会の隅々で大きな地殻変動への息吹を感じることもできます。センターニュースの読者にはコンピュータの専門家が多いと思われますが、本特集のように興味の対象が人文・社会系にある利用者も多いことも思い出していただき、意見交換の一助にしていただければ幸いと思います。

大阪経済大学の家本先生は、文科系の情報教育に長く携わってこられ、今後のあるべき情報基礎教育の内容等についても、情熱溢れる幅広い研究を進めておられます。また、大阪教育大学の越桐先生は、初中等教育を支援するホームページを作成・運営された経験に基づき、教育分野でのインターネットの可能性について細かな検討と方向性を示されています。さらに高岡短期大学の小松先生と本特集の編集委員でもある大阪大学の小郷先生は、山村の家庭に一台ずつのコンピュータが持ち込まれた富山県山田村のようすを地域共同体の立場から検討されています。

今後、コンピュータ・情報ネットワークの利用拡大や共同体社会への浸透に伴い、予期することのできなかった摩擦が生じることも考えられます。このような問題を解決するための新たな課題に幅広い研究分野が待ち受けているのではないだろうか。（大阪大学人間科学部教授　前迫孝憲）